

喜多方更生保護女性会会長

坂内 ヨシ さん



喜多方更生保護女性会の会長を務め、一人一人が尊重され、心豊かに生きられる社会を目指すとともに、喜多方市食生活改善推進員会会長、喜多方混声合唱団代表を務めている。その他多数の団体に所属し、ボランティア活動をしながらも自らが学び、楽しんで活動をしている。

会員数（平成 27 年 10 月 1 日現在）

喜多方更生保護女性会…175 人

喜多方市食生活改善推進員会…223 人

喜多方混声合唱団…30 人

現在の活動内容について

私は現在、いくつかの団体に加入していますが、今回は代表を務める更生保護女性会、食生活改善推進員会、混声合唱団についてお話をさせていただきます。

更生保護女性会は、罪を犯してしまった人たちの更生を支える、ボランティアの会です。一人一人が尊重されて、心豊かに生きられる社会にするために様々な活動をしています。具体的には、小中学校、高校での朝のあいさつ運動や、犯罪防止の啓発チラシの配布、市内商業施設での啓発活動、刑務所や自立更生センターの慰問などです。また、「社会を明るくする運動」といって、7月1日からの1か月を強調月間として、全国各地で新聞やテレビ等による広報、街頭キャンペーンや講演会の開催など、さまざまな催しを実施しています。

食生活改善推進員会は、「私たちの健康は私たちの手で」をスローガンに、私たちも勉強し、勉強したことは地区の人たちに伝達して、地域住民の健康保持のお手伝いをしています。健康に生きる世の中を作ることを目的とした、ボランティア活動です。喜多方地区、熱塩加納地区、塩川地区、山都地区、高郷地区の5地区でそれぞれのグループで活動しており、喜多方グループは市内中学校3校の郷土食伝達や、子ども料理教室、ヘルスマイトコンクール、男の料理教室、親子料理教室、一人暮らしの方にふれあい弁当を配布するなどの活動をしています。また、市の健康福祉祭、桜ウォークでのなめこ汁の提供、離乳食教室、健康ウォーク、リバーサイドウォークなどの協力もしています。

混声合唱団は、歌うことが好きで入団し、早33年になります。入団する前は合唱をしたことになかったのですが、今はハーモニーを楽しんでいます。

毎週1回練習をしていて、2年に一度独自の発表会「会津合唱フェスティバル」や、「いいでトライアングル」に参加しています。また、教会のクリスマス会や視聴覚障がい者の方のボランティアの集会などでも歌を披露していますが、ボランティアというよりは、歌いながら楽しませてもらっています。



いいでトライアングル合唱祭

大切にしていること

会員ひとりひとりを尊重して、団体の輪（和）を大切にすることです。最近は団体に入る若い方が少ないうように思いますし、それが一番の悩みでもあります。役をやってもらおうとすると辞めてしまう、どんな団体でもそれは悩みとしてあると思います。誘っても、なかなか入ってはもらえないのが現状です。

震災の後つくづく感じたのは、更生保護女性会と食生活改善推進員会は全国規模の団体なので、義援金や手作りの品物、メッセージを県レベルでいただき、会員の絆をすごく感じました。原発の影響で家に帰ることができない方の交流会も県レベルでやっていますが、集まった時に「更生保護女性会のバッチを付けているのを見て、涙が出た」と言っている人もいたのが印象的で、その時も会員の深い絆を感じました。会の活動を通じて色々人と会って、自分が豊かになっていると感じます。人ととのふれあいが大事です。

私の出身は福島市で、喜多方市に嫁いできた後仕事を辞めましたが、働いていた時には出会えなかつた人と会うことができたので、仕事を辞めて色々な活動をしてきて良かったと今では思います。

活動に対する思い

更生保護女性会は誘われて入ったのですが、この活動は会に入らなければ経験することができない活動だなと思いました。罪を犯してしまった方と会う機会があったり、自立更生センターに入所している方と関わることで、自分が勉強させられています。そういった方たちの立場にたつこともできました。更生保護女性会の活動は、母親のような気持ちでやらなければできないと思います。



喜多方更生保護女性会の活動の様子



喜多方市食生活改善推進員会の活動の様子

ただきたいと思っています。食生活改善推進員として学んだことを、孫や子供たちに教えることも楽しいですし、地域の方に教えるのも楽しいです。集まりはいつも保健センターで行っているのですが、賑やかだねといつも言われます。いつも楽しんでやらせてもらっています。食べることだからなおさら楽しいですし、自分のためにもなり、それを家にも地域にも反映できることが一番の張り合いです。

合唱はストレス解消になります。歌っているときは嫌なことを忘れていました。アルト、ソプラノ、テ

ナー、バスの4つのハーモニーが合った時の感動は、経験してみなければ分からだと思います。

色々な団体に入って、色々な活動や経験をして、忙しいけれど自分の人生にとって良かったと思うことはたくさんありますし、得る物が大きいです。また、色々な活動をしていけるのは、家族の理解と協力があってこそと、感謝しているところです。

今後の展望

今やっている活動を広げていくために、それぞれPRが大事だと考えています。やはり自分たちが楽しむ活動しているところを見てもらって、これからの中の人たちにも入ってもらえるような活動に繋いでいければいいと思ってはいますが、なかなか難しいところです。私たちの年代は人のためにボランティアをすることに対してなんとも思わなかったのですが、今は自分のためではなく人のために何かしようと思える人が少ないうに感じます。その中で、ボランティアをしたい人をどうやって探し出すか、難しい時代になったと思います。これはどの団体でもそうです。更生保護女性会は啓発活動でPRをしたり、食生活改善推進員会ではイベントの際に案内を入れたティッシュを配ったりと、努力はしていますがなかなか一般の方には分かってもらえないのが現状です。PRは本当に大事だと思います。どれも大事な会で、なくなつては困るので、若い方に入っていただきたいところです。今の会員を大事にしつつ、自分たちの活動している姿をできるだけ多くの人に見せて、楽しくやっていることをアピールしてPRしていきたいと思います。

女性が社会で活躍するために必要なことは

自分も勉強することが大事だと思います。仕事をしていたときは国家公務員だったのですが、同じ給料だったら男も女も同じ仕事をしなさいという感じで、職場ではある程度男女平等になってきていましたが、地域にいくとなかなかそうはいかないという現実がありました。国の役員や区長などに女性が少ない点にはすごくギャップを感じています。たまたま夫が転勤で15年間普段家にいなく、私が地域の集まりに出て、地域ではいまだに男性上位の時代なのかなと、女性は地域では認められていないと強く感じました。でも、女性も自分でものを言えるように勉強して、地域のことや社会のことを知らないついていけないと思います。

女性は割と引っ込んで発言をしなかったり、進んで前に出ないところがあります。審議会などでも、色々な審議会に出させてもらっていますが、女性が私一人の時もあります。女性で自分から審議会などをやる人は少ないのではないでしょうか。私は男女関係なく言ってしまう方ですが、自分に自信を持って、積極的に男性の社会にも溶け込み、積極的に参加することが大事だと思います。

逆に、男性はボランティアや趣味の分野に飛び込んでいかないように感じます。混声合唱団も男女半々の時期もありましたが、今男性は数えるほどしかいません。仕事を辞めてからの男性は寂しい方が多いのではないかでしょうか。趣味の面でも、男女共生というにはまだ遠い気がしています。我が家は共稼ぎだったこともあり割と男女共生で、男女関係なくみんな家のことはやっていました。しかし今の若い夫婦を見ていると、女性が家のことをやらなければならない、男性は手伝わないという風習はあるように思います。食生活改善推進員会のように、男性が1人の場合もあるので、男性も今まで女性が活躍していた分野にどんどん勉強して入ってきてほしいです。

人のためでもあり自分のため

私は結婚してしばらくして仕事を辞めましたが、定年まで勤めていたら、今入っているような団体には関わらなかったと思いますし、最近は働く女性も多くなり、仕事とボランティアの両立はなかなか難

しいと感じます。でも、私が子育てした時よりも保育所など子どもを見てもらえる制度が充実し、時間的に余裕ができたと思うのですが、地域の活動やボランティア活動に参加するという精神も薄れてきているのではと感じます。義父に「人に頼まれたらやってあげなさい、人に頼まれないような人間にはならないように」と言われたことがあります。

ボランティア活動は、もちろん人のためになることですが、自分にとってもプラスの面が大きいということを分かっていただけたらと思います。